

「ふくい型アプレンティス」キャリア形成プログラム (産学官金連携によるDX人材養成)

福井大学  職業再構築支援プログラム
受講ガイド 2023

「ふくい型アプレンティス」 キャリア形成プログラム (産学官金連携によるDX人材養成)

福井大学は地域産業界や福井県とともに、これまで「ふくい型」と呼ばれる、大学を中心とした極めて緊密な産学官金連携体制を構築してきました。「ふくい型アプレンティス」プログラムは、米国にて雇用対策として成功を収めたアプレンティス制度（高度技術習得制度）に倣い、福井県の各種補助と支援、企業による実務研修等の就業支援を交え、多くの企業から強いニーズがある「システム開発・設計」や「DX（現代社会のデジタル化）」の能力を、意欲さえあれば学歴やスキルに関係なく集中的に身に付けることのできるものです。地域の企業や大学の専門講師陣を中心にコア科目（32時間）とスキル養成科目（40時間）を通じて汎用的な知識の習得を目指します。

さらに就業と一体化したアプレンティス科目（32時間+就業体験等24時間以上）は、2つのコースからなり、企業から派遣された実務家から直にシステム開発・設計やDX（現代社会のデジタル化）について学ぶことができます。受講者の確実な学びを実現するため、チームメンターによるメンタリング体制をとり、補講ではオンラインコンテンツ等を時間外に組むことで、確実なスキル習得と就業先企業との関係構築を図ることができるプログラムとなっております。

CONTENTS

受講者のみなさまへメッセージ	02	各科目紹介	コア科目	10
プログラム主旨	04		スキル養成科目	12
目指す人物像	05		アプレンティス科目	15
スケジュール・受講者の声	06	Q&A		20
科目一覧・インターンシップ先予定企業	07	福井県からの支援		23
授業日程表	08			

受講者のみなさまへメッセージ

事業統括、福井大学理事・副学長

末 信 一 朗

本プログラムでは、「システム開発・設計」や「DX（現代社会のデジタル化）」の2つのコースを用意しました。現在の高度情報化社会において、これらのコースの重要性は言うまでもありません。

受講者の皆さんが、基礎から応用までをしっかり学ぶことによって組織の中で頼りにされるDX人材となることを期待しています。



プログラム統轄、福井大学地域創生推進本部 教授
大学院工学研究科 産業創成工学専攻

竹本 拓 治

システムを理解し交渉できる人、各企業のデジタル化を推進できる人、そのような人は産業や職種を問わず企業で必要とされます。様々な産業現場で修了生の皆様をご活躍されることを楽しみにしています。



シニアメンター、福井大学 元学務部長

坂井 博昭

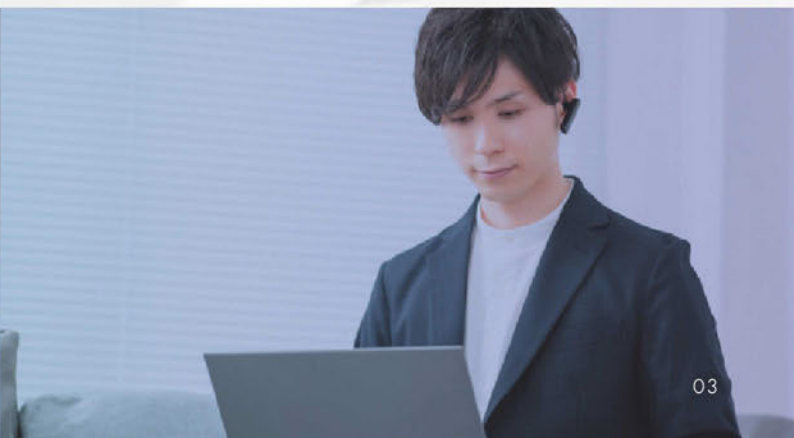
一生懸命やっている人は、誰かが見てくれています。自分を信じて、新しい未来を見つけるために、是非、プログラム受講にチャレンジしてください。心よりお待ちしております。



授業の補佐、補習コンテンツ質疑対応

メンター教員、学生アシスタント

本プログラムでは、対面式の授業の他に、学生アシスタントによるITスキルのオンデマンド基礎講座も設置しています。メンター教員はキャリア概論を通じて受講者の相談等に応じます。また授業前後に教室にいる学生アシスタントにも、気軽にお声がけください。



プログラム主旨

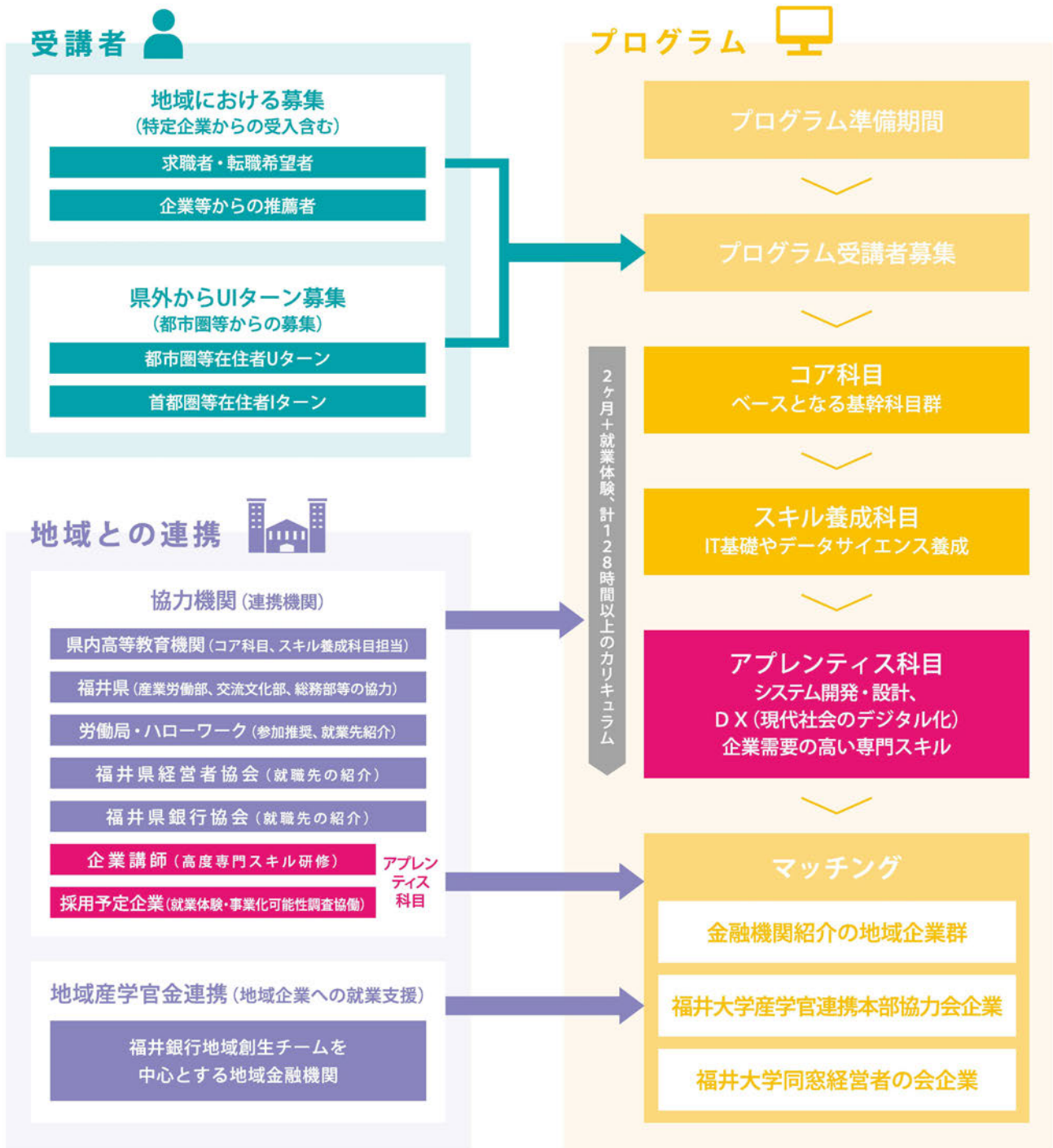
福井大学が実施する、米国の雇用対策で成功を収めたアプレントゥィス制度（高度技術習得制度）の地域エコシステム版プログラムです。労働局・ハローワークや企業、金融機関、県内大学等と協力し、再就業プログラムの受講者を募集の上、UIターン希望者への各種補助の他、本事業に福井県が全庁体制で支援する講座となります。

■ アプレントゥィス (Apprentice) 制度

「人々に仕事を与えたい。労働者の力で国を再建」をスローガンに米国トランプ政権が取り組んだ高度技術習得制度。過去の学歴等に関係なく、技術を一から学び、「Find Something New」を掲げ、新しいキャリア、新しい仕事を見つけることを受講者の目標とした。

■ ふくい型の地域エコシステム

福井県ではこれまで「ふくい型」と呼ばれる、県、産業界、大学、金融機関が連携し、人材育成や産学連携プロジェクトに取り組み、エコシステムとして自律的に継続発展し現在に至っている。本事業でも、福井県の全庁体制の支援の他、産業界や金融機関のネットワークを活かして事業を推進し、事業終了後も継続したりカレント教育の礎とする。



目指す人物像

大学と実務家教員や企業による授業を組み合わせ、全受講者がサイバーセキュリティやDXに関連する知識を学ぶとともに、専門的なシステム開発・設計またはDX（現代社会のデジタル化）に関する高度技術習得者となっていただくことを目指します。

高度情報技術
スキルの習得

社会により良い
ITプロダクト・サービスを
提供出来るDX人材

社内のDXを率先して
推し進める提案ができる
DX化対応人材

+ 企業
インターンシップ
or
事業化可能性
調査
24時間以上

アプレントイス
科目

合計32時間の履修

システム開発・設計コース

担当:株式会社アフレル

コース別少人数制

講義アシスタント補助

ITシステム開発プロセスの
全工程を把握できる

設計とテストの対応関係

要求分析 ↔ 運用テスト

外部設計 ↔ システムテスト

内部設計 ↔ 適合テスト

プログラム設計 ↔ 単体テスト

実装

各工程の役割の理解

合計32時間の履修

DX(現代社会のデジタル化)コース

担当:特定非営利活動法人エル・コミュニティ

コース別少人数制

講義アシスタント補助

就業先の業種を問わず
DX化推進の提案ができる

技術

発想

知識

知識を組み合わせ発想し、技術によって地域や企業の課題を解決できるDX人材育成を目指す。

スキル
養成科目

合計40時間の履修

3科目

DXの基本を学ぶ

スキルを高める必修3科目

講義アシスタント補助

企業とデータサイエンス、プログラミング、サイバーセキュリティ

コア科目

合計32時間の履修

キャリアの基礎に関する必修4科目

少人数クラス分けによるメンター制

クラス授業

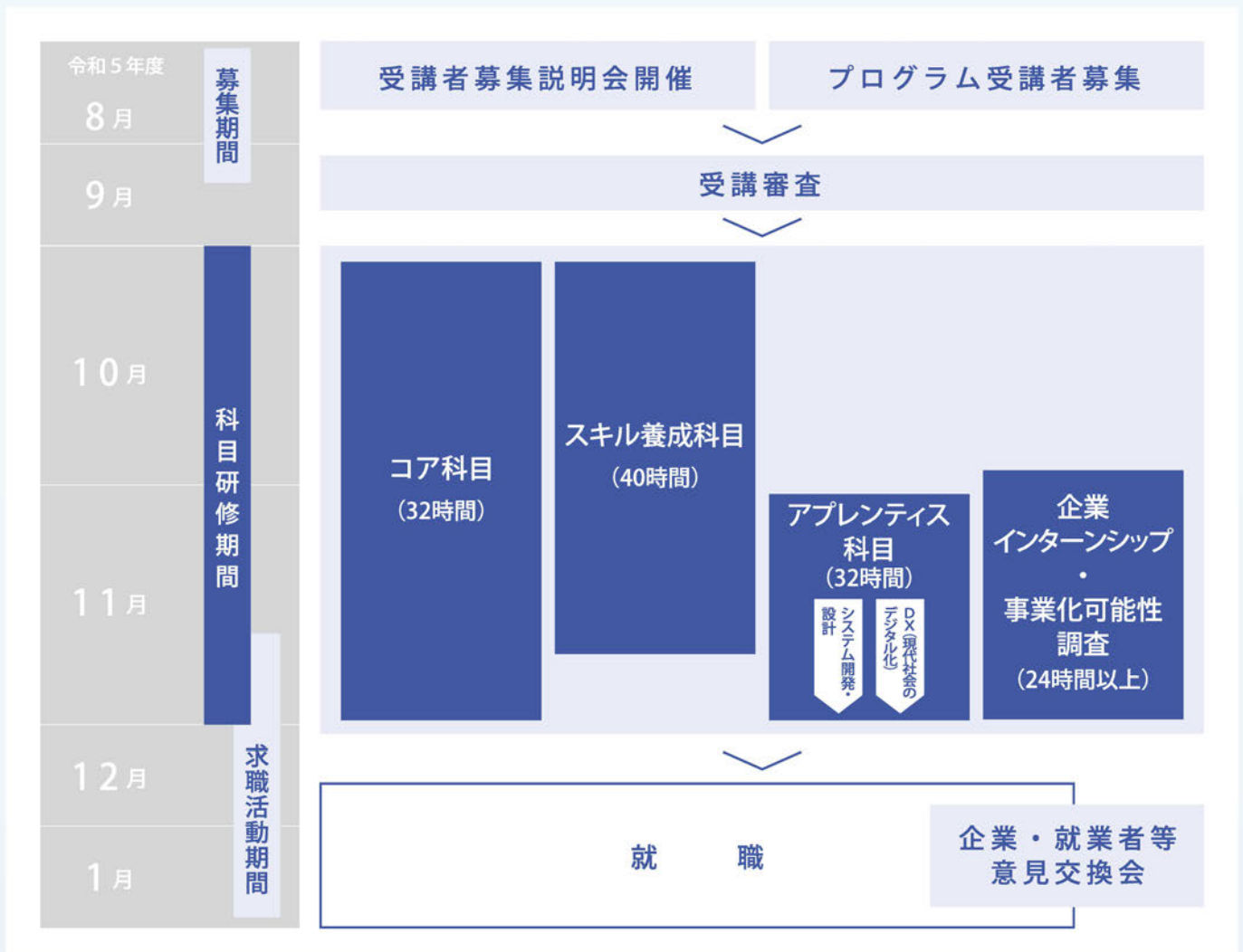
キャリア概論、地域産業論、リサーチ&プレゼンテーション、ビジネスマナー

事前学習
補習

補習 オンラインコンテンツ併用(時間外)、講義アシスタントの活用

スケジュール

金曜日夜間や土曜、日曜日を中心に開講。オンラインコンテンツ補講や講義アシスタントの配置など、様々な方に受講していただけるようなスケジュールとなっております。



受講者の声



リカレント事業への参加

福井県にUターン就職した私は、仕事や今後の人生に役立つ技術を身につけたいと考えていました。そこで出逢ったのがリカレント事業です。“学びなおし”と“次世代の戦力となる人材育成”に興味を持ち参加しました。私の受講したプログラムの内容は、主にサイバーセキュリティとプログラミング基礎、新規事業立案に関するデザイン思考、OJT等です。講義を重ねる度、会話や思考が洗練されていくのを感じました。

リカレント事業では、様々な背景を持った仲間と共に学び、意識し合いながら過ごすことができます。講義の予習復習やプレゼン内容の相談はもちろん、プログラム終了後もお互いの進路や資格取得に関する情報交換を行っています。私はリカレント事業に参加して新しい可能性と、新しい目標を得る事が出来ました。

大学院への進学

私は現在、福井大学大学院工学研究科博士前期課程産業創成工学専攻経営技術革新工学コース竹本研究室に在籍しています。リカレント事業で培った“学びなおし”そして“成長し続ける”ために受験しました。

研究室には最先端の技術を用い、学びながら挑戦できる環境があります。会社員を経て進学した事（現在、在職しつつ大学院に在籍）で、“なぜ学ぶのか”“それを社会にどう活かせるのか”意識し研究できる喜びを感じています。私にとって大学院は“自己成長と挑戦できる環境、だと考えています。生まれ育った地元で、社会に貢献する人材となるべく、日々精進しています。

科目一覧

科目		講義時間	講義形態	担当教員・実務家	
コア科目	必修	キャリア概論	8	対面	福井大学地域創生推進本部 末・小嶋・竹本・勝木・坂井・舟木・鈴木 他
	必修	地域産業論	8	対面	福井大学国際地域学部、福井県（未来創造部） 峠岡 伸行 他
	必修	リサーチ&プレゼンテーション	8	対面	ジャートム株式会社 光成 章（実務家）
	必修	ビジネスマナー	8	対面	一般社団法人オルタナイト 松木 海穂（実務家）
スキル養成科目	必修	企業とデータサイエンス	16	対面	福井大学 長谷川 達人・井上 博行
	必修	プログラミング	16	対面	株式会社ビジュアルソフト 企業担当者（実務家）
	必修	サイバーセキュリティ	8	対面	福井工業大学経営情報学部 北上 真二
アプレンティス科目	選択必修	アプレンティス演習： システム開発・設計	32	対面	株式会社アフレル 企業担当者（実務家）
		アプレンティス演習： DX（現代社会のデジタル化）			特定非営利活動法人エル・コミュニティ 企業担当者（実務家）
	選択必修	アプレンティス実習： 企業インターンシップ	24以上	対面	福井大学地域創生推進本部 末・竹本・舟木
		アプレンティス実習： 事業化可能性調査			福井大学・国際ファッション専門職大学・青山学院大学 竹本 拓治・平松 隆円・林 拓也

「アプレンティス演習」、「アプレンティス実習」はそれぞれ1科目を選択

インターンシップ先予定企業

- 株式会社アイビックス
- 井上商事株式会社
- 小野谷機工株式会社
- 清川メッキ工業株式会社
- 株式会社T A S
- 大和電建株式会社
- 株式会社ビジュアルソフト
- ファーストウッド株式会社
- 株式会社福井銀行
- 福井ネット株式会社
- その他

授業日程表

10月

必修：60時間

1～4週目

	金 [1週目：10/6 2週目：10/13 3週目：10/20 4週目：10/27]	土 [1週目：10/7 2週目：10/14 3週目：10/21 4週目：10/28] ※事業化可能性調査は、10/7を除く	日 [1週目：10/8 2週目：10/15 3週目：10/22 4週目：10/29]
10:00 12:00		アプレンティス実習 事業化可能性調査 (30名) 2h×3回:6h	サイバーセキュリティ (30名) 2h×4回:8h
昼休憩			
13:00 15:00		アプレンティス実習 事業化可能性調査 (30名) 2h×3回:6h	ビジネスマナー (クラスA:15名) 2h×4回:8h
15:15 17:15		プログラミング (30名) 4h×4回:16h	リサーチ&プレゼンテーション (30名) 2h×4回:8h
17:30 19:30			ビジネスマナー (クラスB:15名) 2h×4回:8h
19:00 20:00	地域産業論 (30名)		
20:15 21:15	キャリア概論 (A～E:各6名)		

11月

■ 必修：24時間

■ 選択必修：44時間

1～4週目

	金 [1週目：11/3 2週目：11/10 3週目：11/17 4週目：11/24]	土 [1週目：11/4 2週目：11/11 3週目：11/18 4週目：11/25]		日 [1週目：11/5 2週目：11/12 3週目：11/19 4週目：11/26]	
		第1教室	第2教室	第1教室	第2教室
10:00 12:00		企業とデータサイエンス (30名) 2h×4回:8h		企業とデータサイエンス (30名) 2h×4回:8h	
昼休憩					
13:00 15:00		アプレンティス 演習 システム開発・ 設計 (15名) 4h×4回:16h	アプレンティス 演習 DX(現代社会の デジタル化) (15名) 4h×4回:16h	アプレンティス 演習 システム開発・ 設計 (15名) 4h×4回:16h	アプレンティス 演習 DX(現代社会の デジタル化) (15名) 4h×4回:16h
15:15 17:15					
19:00 20:00	地域産業論 (30名)				
20:15 21:15	キャリア概論 (A～E:各6名)				

平日 指定曜日

アプレンティス実習	企業インターシップ	実 習:受入企業 指定日時(合計12h以上) 成果発表:日時未定(1h程度)
	事業化可能性調査	実 習:11/3(金)10:00-12:00、13:00-15:00、15:15-17:15(6h) 中間発表:日時未定(3h) 最終発表:日時未定(3h) ※いずれも日時は別途連絡

各科目紹介 コア科目

キャリア概論(少人数メンタリング体制)や地域産業論により、地域内就業の知識を得るとともに、リサーチ&プレゼンテーションにてエビデンスに基づくプレゼン能力を磨く。ビジネスマナーにてビジネススキルを身に付ける。

キャリア概論

担当/末 信一郎・小嶋 啓介・竹本 拓治・勝木 一雄・坂井 博昭・舟木 幸雄・鈴木 梓

キラリと光る強みを持って、あなたのキャリアをより戦略的に！



プログラム全体では、「ビジネスの各場面」に必要なスキルとその土台となる知識から、「システム開発・設計」または「DX」の専門性までを身につける内容になっています。しかしそれらを習得したとしても、活かす場面がなければ、宝の持ち腐れになってしまうかもしれません。一方で専門性を身につけたとしても、学校時代の学びが仕事に直結していないと感ずることがあるように、そのまま活かすことができる業種や職種は多くないかもしれません。しかしどのような仕事に就くにせよ、日々の業務をこなす中で、これらの知識が役に立つ場面もでてくる可能性があります。

この科目では、「キャリアの考え方」や「キャリアのデザイン」の学びを通じ、受講者みなさんが受講修了後も自身のキャリアを主体的に構築できることを目指します。

地域産業論

担当/峠岡 伸行・福井県(未来創造部) 他

幸福度日本一を支えるのは産業の力！成長する福井の企業を知ろう！



福井県は「幸福度日本一」(日本総合研究所調査)とランキングされていますが、それを支えているのが「産業の力」です。福井県内には、日本のトップクラスの技術力を持ち、自動車や電子機器、航空宇宙産業などの先端産業を支える企業がたくさんありますが、そのほとんどが皆さんの普段の生活の中では出会わない企業です。このような成長する企業の実際の姿を知り、また今後の更なる成長に向けて必要とされている人材像についても知ることで、皆さんが将来、成長する企業の中で活躍する姿をイメージすることができます。

また、来年春に迫った北陸新幹線福井県内開業に向けた福井県の取り組みの紹介や県内産業への経済効果にも触れながら、仕事内容の変化についても考えます。

(コア科目)

リサーチ & プレゼンテーション

担当/光成 章

データに頼らせ、説明で唸らせる。あなたの事業を「説得力」で切り開く！



どんな事業も、お客さまがいなければ成り立ちません。提供する製品やサービスを購入してもらうには、できるだけ優れたものを作り、それが優れていることを、お客さま(になりそうな人)にわかりやすく伝えることが必要です。製品開発過程でお客さまの要望を正しく収集するリサーチ力と、製品の良さ等をわかりやすく伝えるプレゼンテーション力。これらの力に磨きをかけていきましょう。全4回。

1回目：マーケティングリサーチの有効活用

2回目：リサーチ計画

3回目：リサーチの実施と分析

4回目：レポートとプレゼンテーション

(コア科目)

ビジネスマナー

担当/松木 海穂

また会いたい人になる。



知っているようで知らない、今さら人に聞けないのがビジネスマナー。ビジネスマナーを身につけていなければ、職場、取引先などに不愉快な感情を抱かせることがあります。また、ビジネス上、コミュニケーションが円滑に行われないと重大な問題にも繋がりがかねません。相手に不愉快な思いをさせない、迷惑をかけないための基本ルールを理解した上で、直ぐに役立つ実践可能な応用編は、冠婚葬祭、接待マナーなど多岐におよび、必要不可欠な対人関係におけるスキルは強い魅力となり「また会いたい人」「選ばれる人」になります。知性、感性を併せもった表現力と存在感、人間力をも高めていくことを目指します。

1回目：出会った瞬間から始まる印象マナー 2回目：対話力マナー「選ばれる人になる」

3回目：良好な人間関係コミュニケーションマナー 4回目：これだけは知っておきたいTPOマナー

各科目紹介 スキル養成科目

全受講者がサイバーセキュリティやDXの基礎を学ぶとともに、プログラミングではITスキルを磨く。

企業とデータサイエンス

担当/長谷川 達人・井上 博行



データから真実を見抜くための力。

現在、企業や国策などの様々なシーンでデータの重要性が説かれています。本講義では「データから真実を見抜くための力」を身につけるために、データの加工手法、集計手法、可視化手法、そして機械学習を用いた分析手法に関する説明をします。機械学習は人工知能(AI)技術の一種です。例えば、写真を入力として与え被写体が何かを自動で認識する技術や、売上のログ情報から顧客を自動でグループ分けする技術などがあります。受講後には、実社会にあふれるデータに対して、どのように集約することで、どのような課題改善が行えるのかといった、問題定義とその分析の一部が行えるようになります。

1回目：データハンドリング(データを収集・蓄積するための技術)

2回目：構造化データを扱う技術(Excelを用いた簡単な分析)

3回目：非構造化データを扱う技術(時系列データ解析と画像解析の基礎)

4回目：機械学習の基礎知識

データを正しく扱い、情報の宝を見つけよう。

ネット社会になり、様々なデータを容易に利用できるようになってきています。それらのデータから様々な情報を読みとり、ビジネスに利用したり政策立案に役立てたりすることが今後ますます重要になってきます。一方で、個人情報の流出などの問題が発生しており、データを扱う上での危険性を理解した上で、正しい倫理観を持ち合わせる必要があります。本講義では収集したデータを適切に処理し、それから様々なことを読み取る能力を身につけることを目標とします。また、それらを安全に利用する方法についても触れます。具体的には、個人情報などを中心にデータの適切な扱い方、オープンデータなどの収集や可視化方法、情報の読み取り方などを学びます。

5回目：データと情報(データと情報の違い、可視化)

6回目：データ・情報の適切な扱い方、情報モラル

7回目：オープンデータの利用と統計手法による処理

8回目：多変量データやテキストデータの分析

プログラミング

担当/株式会社ビジュアルソフト



VISUAL SOFT

IT企業が語る「業界と仕事のリアル」 - 2つの開発手法を体験しITエンジニアを知る -

IT業界の第一線で活躍している講師が、実体験をもとにした切り口から講義を行います。実際に仕事で起きていることや感じていることを織り交ぜてお話することで、皆さんのIT業界への理解とイメージがより深まるような内容にしたいと考えています。

また、グループワークを交えた以下の開発体験を予定しています。

- 1 ノーコード開発ツールを用いたアプリ開発体験
- 2 Android開発環境でのアプリ開発体験

ノーコード開発とは、画面の作成や遷移などを直感的に操作することで、プログラミングの知識やスキルを持たない方でも短時間で開発を行うことが可能な手法です。

仕様書に従って開発を行うことで、システム開発の疑似体験をしていただけます。

その後、同様のアプリをプログラミングで開発していきます。

プログラミング言語は「Kotlin」、開発環境は「Android Studio」であり、実際のAndroidアプリ開発でも使用されているため、より実際の仕事に近い実践的な体験ができます。

サイバーセキュリティの知識と実践で企業活動を支えよう！



近年、サイバー攻撃やランサムウェアなどの様々なセキュリティ脅威が健全な企業活動を妨げるようになってきており、多くの企業が、これらの脅威に対処できるサイバーセキュリティ管理者を求めています。この科目では、実践的なサイバーセキュリティ管理者になることを目指して、サイバーセキュリティの基本的な考え方、暗号や認証などのセキュリティ基礎技術、企業におけるセキュリティ対策およびセキュリティ関連の法律について学びます。また、最先端のIoTやクラウド・コンピューティングのセキュリティに加えて、最近注目を集めているゼロトラスト・セキュリティについても学びを深めます。

第1回目：サイバーセキュリティの基本的な考え方

第2回目：セキュリティ基礎技術（暗号・認証）

第3回目：ネットワークセキュリティ

第4回目：セキュリティ対策と関連法律

各科目紹介 アプレンティス科目

システム開発・設計コース、DX（現代社会のデジタル化）コースに分かれる。システム開発・設計において多数の研修実績を持つ株式会社アフレル、シビックテック等の多数の事例を持つ特定非営利法人エル・コミュニティによる、地域人材ニーズを汲んだ研修を実施。2コース共に、企業視察を含む実証型の事業化可能性調査または地域企業へのインターンシップ、およびその成果発表会を別途24時間以上組んでおり、座学等で学んだ内容をアウトプットする機会を設定している。

企業インターンシップ

担当/末 信一郎・竹本 拓治・舟木 幸雄

企業の雰囲気を経験してみよう！想定外の発見があるかも？



「最初は苦手」だと思っていたけど、そんな奴が「今の親友」などという話は時折耳にしませんか？人間関係は第一印象が大きく左右すると言いますが、話してみると印象が変わることがあるのも事実のようです。

企業と働く人の関係も同じかもしれません。知らないから「自分に合わない」と思い込んでいるのかも。

みなさんには、ぜひ積極的に、これまで関わってこなかった産業に属する企業にも興味を示していただきたいと思います。もちろん「第一印象で決めていました！」という企業があれば、そこを経験してみてもいいですね！

事業化可能性調査

担当/竹本 拓治・林 拓也・平松 隆円

あなたは新規事業担当者！新部署を成功させるには？



日々の業績はそこそこ順調、しかしあなたが所属する会社では今の主力事業に先細りの可能性が…。そんなある日、あなたは企業の新規事業プロジェクトのメンバーに抜擢されました。

この科目では「5年後に自社事業の一部門としての存在感を出す」ことを目標として、福井県下の市場調査を踏まえ、新規事業計画を作成します。福井県の1企業を想定し、まずはその企業の現業の強みから新規事業をブレインストーミングします。想定企業にはヒアリングを行い、調査ではペルソナ（架空で想定する具体的なユーザー像）の設定、オープンデータ分析やアンケート調査等を駆使して、市場の可能性を探りましょう。事業準備までの工程、事業開始後の中期計画（ロードマップとよばれる予定）を作成し、授業で協議とブラッシュアップを重ね、ビジネスの成功確率を高めていきます。

システム開発・設計

ITスキル標準 (ITSS) : レベル1 およびレベル2の一定領域を中心に扱う

システム開発・設計における「全体を俯瞰する目」を養い、品質意識を高く持てる人材に。

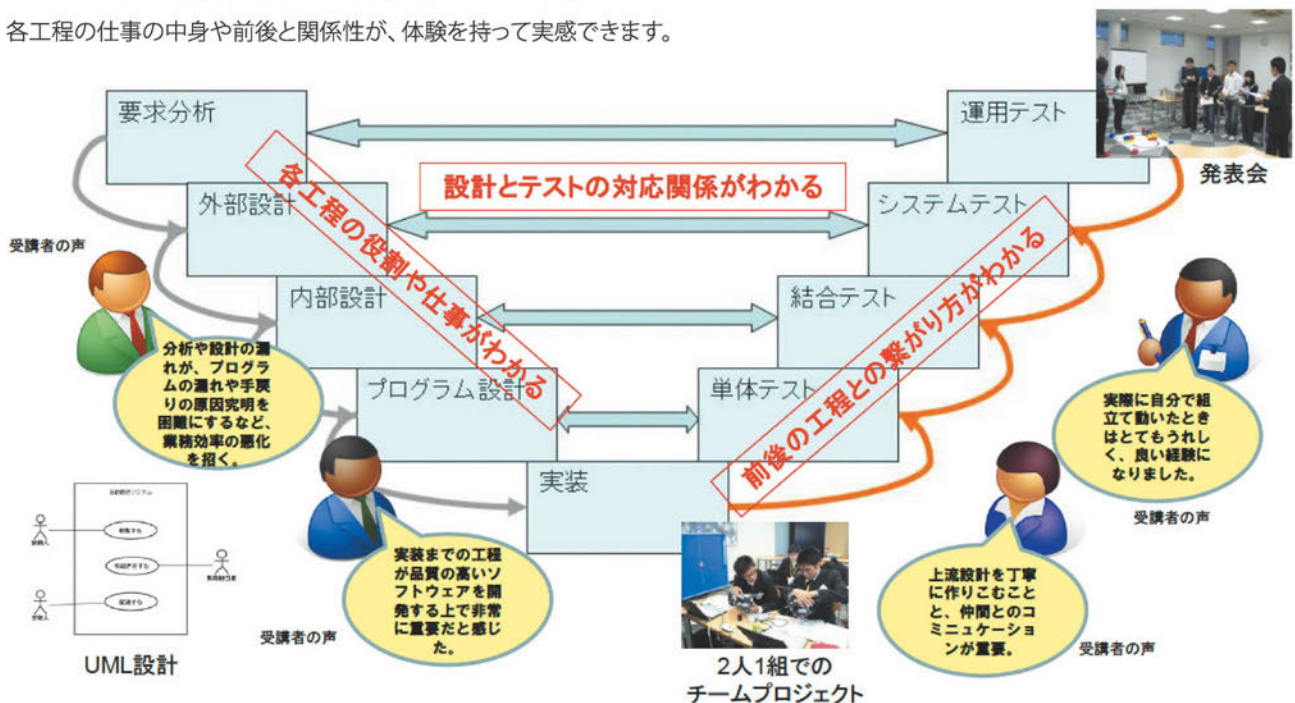


ポイント

- 1.各工程の役割や仕事がわかる。
- 2.前後の工程の繋がりがわかる。
例) 外部設計の担当者は、次工程である内部設計担当者がインプットとして欲しいモノを、アウトプットできる。
- 3.V字の設計部分と、テスト部分との対応関係がわかる。
例) テスト工程でほぼ白紙の「テスト項目表」を渡された場合、自身がまとめた設計ドキュメントから必要なテスト項目を抽出してテストを実施できる。

開発プロセスの全工程を5日間で体験する。

ソフトウェアによる開発の流れを一通り体験することにより、各工程の仕事の中身や前後と関係性が、体験を持って実感できます。



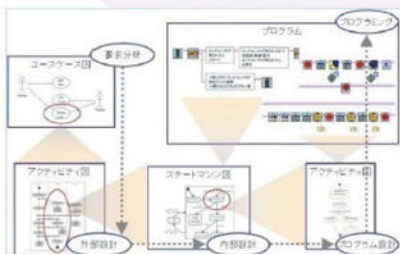
ビジュアル化して、楽しみながら開発を理解する。

システム開発を俯瞰してみるための一つの例として、「ロボットを使って宅配業務を自動化する」システム開発を二人一組のチームで擬似体験します。モノを作り上げる喜びと達成感を得ることができ、また、ロボットを使い体験することでの自信と深い学びに繋がります。

実習・自動搬送システム開発



設計 ⇒ モデル図でビジュアル化



UML設計

成果物内の情報の漏れや誤りが後の工程の作業にどう影響するのとも見やすく学習可能。

品質や作業効率性への影響を実感

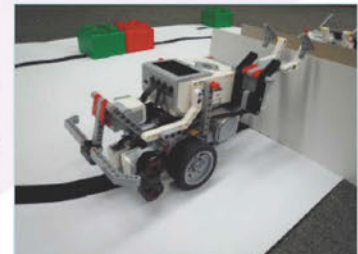
プログラム ⇒ アイコン型でビジュアル化



教育版EV3ソフトウェア※

フローチャートの流れでプログラムを作成。言語知識は不要。ソフト開発者だけでなく、機械設計者や営業職、さらにはスタッフ職もモノ作りが学習可能。

研修成果 ⇒ ロボットの動きでビジュアル化



教育用レゴ マインドストームEV3

ロボットの動きで、理解度が一目瞭然。(正しい・正しくない)論理的に考えて問題を解決していくため達成感が違う。

自分が作ったシステムが動く楽しさ

DX（現代社会のデジタル化）

ITスキル標準 (ITSS) : レベル2の領域を中心に扱う

実際にプログラムやIoTプロダクトをつくり、
知識とスキルを兼ね備えたDX人材に。



目指すデジタル社会の姿

- 1 社会課題の解決や新たな価値・顧客体験の提供が迅速になされる。
- 2 グローバルで活躍する競争力の高い企業や世界の持続的発展に貢献する企業が生まれる。
- 3 資本の大小や中央・地方の別なく価値創出に参画できる。



引用：経済産業省、「DXレポート2.1 (DXレポート2 追補版) ～企業の変革を加速させるための課題や政策の方向性～ (2021年8月)」
https://www.meti.go.jp/policy/digital_transformation/index.html

ポイント

知識を組み合わせることで発想し、技術によって地域や企業の課題を解決できるDX人材育成を目指す。

- ハンズオン形式 (体験学習) で、実際にコンピューターやプログラム、IoTプロダクトを作りながら学ぶ。
- 講座ごとのテーマや制作物に対して、より良くするためのアイデアを出しながら発想力を養う。



カリキュラム

1. 現代社会のデジタル化

DXの元となる現代社会の変化を確認して、必要なスキルの確認を行います。

2. コンピューター制作

プログラミング初心者向けパソコン「IchigoJam」を半田付けして実際に制作します。

3. プログラミング入門

IchigoJamのBASIC言語を使ったプログラミング入門講座を行います。

4. 計測と制御

IchigoJamにセンサーやモーターなどを接続し、プログラムによって計測と制御を行います。

5. ネットワーク

IchigoJamをインターネットに接続して通信プログラムを作成します。

6. IoT

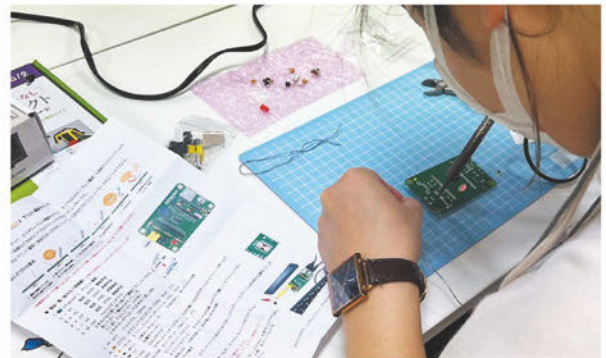
IoTの事例紹介と簡単なIoTプロダクトの制作を行います。

7. Webアプリ入門

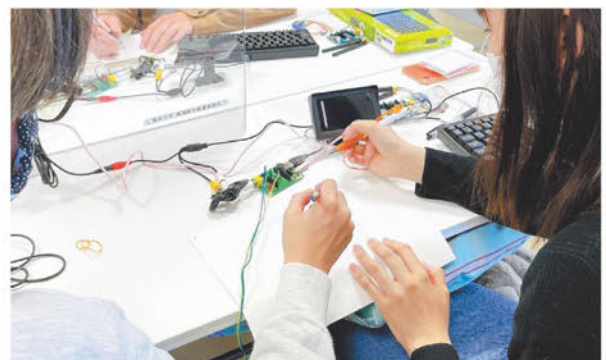
簡単なWebアプリの作成を行います。

8. シビックテック演習

自治体サービスや地域社会の課題に対して技術で解決するためのアイデアを出す演習を行います。



2. コンピューター制作



5. ネットワーク



8. シビックテック演習

| 申込区分等

Q 1 受講申込に当たっては、受講者募集要項「3. 受講申込区分」の(1)失業者、(2)非正規雇用労働者、(3)転職希望者等(将来的な希望を含む。)のいずれかの区分に該当していれば、その理由は問わないのか。

受講者募集要項に記載のとおり、理由や希望する就職先の業種・職種等については、受講申込理由書に簡潔に記載してください。

Q 2 年齢、国籍など、申込資格に制限はあるのか。

特段の制限は設けません。本プログラムでは、就業意欲のある方を募集しています。受講者募集要項に記載のとおり、講義で使用する言語は基本的に日本語であること等に十分留意の上、申請の可否をご判断ください。

| 選考方法等

Q 3 受講申込者数が募集人員の30名に満たない場合でも選考(面接)は行うのか。

本プログラムでは、就業意欲のある方を募集していますので、選考を行います。

Q 4 募集人員の30名を超えて受講者を受け入れる可能性はあるのか。

できるだけ多くの受講者が本プログラムを修了し就業することを目指しており、質の高い教育を保証する上で、30名を上限としています。

Q 5 どのような基準で選考するのか。

受講者募集要項に記載のとおり、申込書類と面接により、受講の必要性・妥当性を踏まえつつ、意欲・資質等を確認した上で受講の可否を決定します。

Q 6 やむを得ない事情により選考を欠席しなければならなくなった場合、改めて選考は行うのか。

やむを得ない事情によると認められる場合は、追加選考等を検討します。

| プログラム内容、就職先等

Q 7 プログラムの修了要件は。

コア科目(32時間)、スキル養成科目(40時間)、アプレンティス科目(演習32時間(システム開発・設計またはD×(現代社会のデジタル化))、実習24時間以上(地域企業へのインターンシップまたは企業視察、実証型の事業化可能性調査)、合計128時間以上履修することを要件とします。各授業科目では、一定水準以上の課題等の提出を義務付けるとともに、就業体験等の成果発表にて審査に合格しなければなりません。

Q8 現在就職しており、時間的にプログラムの受講が可能か心配である。

求職者のほか、転職希望者等も受講者として想定しており、金曜日19時以降、土、日曜日を中心に授業を開講することとしています。また、オンラインコンテンツによる補講や講義アシスタント（大学院生）の配置、短期集中科目の配置等、社会人が受講しやすい工夫を行っています。ご自身の勤務形態も考慮した上で前向きにご検討ください。

Q9 プログラムは、かなり高度な内容のように思われ、最後まで他の受講者についていけるのか自信がない。受講者に対する支援体制はどのようになっているのか。

少人数クラス分けによるメンター制を授業に取り入れています。また、授業時間外でも自習ができるように補習用オンラインコンテンツを用意します。さらに、情報リテラシーに関する講義アシスタント（大学院生）を配置します。一般的に、情報技能に関する習熟度が高ければ当プログラムの履修も容易になると考えられますが、上記のように受講者一人ひとりにきめ細かく寄り添った支援を行うこととしていますので、情報技能にあまり自信がない場合でも、安心して前向きに取り組んでいただくよう期待しています。

Q10 やむを得ない事情により授業を欠席する場合はどうしたらいいか。また、欠席回数によってはプログラムを修了できないこともあるのか。

【プログラム履修上の留意点】 授業については、全体で128時間以上の履修が必要になりますが、病気、けが、親族の葬儀等、やむを得ない理由により欠席する場合は、事前に福井大学地域連携推進課（TEL:0776-27-9760、メール：rcp@ad.u-fukui.ac.jp）へ速やかに（なるべく事前に）連絡し指示を受けてください。なお、やむを得ない理由により欠席する場合でも、一つの授業科目の授業時間のうち3分の1以上欠席しないこと、授業科目毎に一定水準以上の課題等の提出を課すこと等に留意し、授業に臨んでください。

【職業訓練受講給付金の受給上の留意点】 国の求職者支援制度における職業訓練受講給付金の受給を希望する受講者については、欠席する理由が、あらかじめハローワークが定めた「やむを得ない理由」に該当しない場合は給付金が不支給となること、また、「やむを得ない理由」に該当する場合にはその事実を確認できる証明書類をハローワークに提出する必要があることとともに、当該理由による場合でも一定以上の出席率がないと不支給となるため、欠席する場合は事前にハローワークに相談してください。

Q11 アプレンティス実習については「企業インターンシップ」と「事業化可能性調査」のいずれを受講するのかを希望できるのか。また、「企業インターンシップ」を希望した場合、受入先はどのように決定されるのか。また、就職先はこの事業・プログラムの趣旨・目的（地域への定着を促進し、地域共創に寄与する）から県内企業に限定されるのか。

原則として、職業に就いている方（非正規雇用労働者を含む）は、本務があるため企業インターンシップを平日に受講することが困難であり、また企業側にとって、他社の社員を企業インターンシップに受け入れることは機密情報の漏洩等の観点から支障があると考えられますので、「事業化可能性調査」を受講いただき、それ以外の方は「企業インターンシップ」を受講していただきます。ただ、「企業インターンシップ」を受講する方の受入先は、本学が募集した県内を中心とした受入れ可能な企業とのマッチング（書類選考、面談等）により決定しますが、マッチングの結果、受入先が希望する企業でないことや受入企業がない場合は「事業化可能性調査」を受講していただくこともあります。また、「事業化可能性調査」を受講する方に対し、「企業インターンシップ」受入を希望する企業がある場合は、マッチングの上、「企業インターンシップ」を受講していただくこともあります。なお、就職先は、「企業インターンシップ」先等、県内を中心とした企業等を想定しています。

Q12 このプログラムを修了すると、なにか資格はとれるのか。また、IT企業への就職が期待できるのか。

本プログラムは、その基礎となるデータサイエンスやビジネススキルをベースとし、就業に直結するシステム開発・設計、DX（現代社会のデジタル化）といった高度スキルまでを段階的・体系的に習得するカリキュラムを通じ、Uターン希望者を含む、求職者、非正規雇用労働者、転職希望者等の地域への定着を促進し、地域共創に寄与することを目的としておりますので、資格取得を成果とするものではありませんが、レベルはITスキル標準のレベル1から2相当です。就職先としてはIT企業やシステム開発企業のほか製造業や一般サービス業も想定していますが、IT企業やシステム開発企業における「即戦力」を養成するものではありませんので、「企業インターンシップ」先や就職先を検討する場合にはご注意ください。なお、前々年度に本学が実施した「産学官金」による「ふくい型アプレンティス」プログラム（企業IT人材養成）の受講者の中には、プログラムの受講で身に付いたITの基本的スキル・知識を活かして、「ITパスポート試験（レベル1）」に合格した者や、「基本情報技術者試験（レベル2）」、「情報セキュリティマネジメント試験（レベル2）」の合格に向けて勉強を続けている者もあり、プログラムの受講がさらなるスキルアップを目指す動機付けにもつながっていることが伺えますので、参考にしてください。

Q13 このプログラムを修了すれば、必ず就職できるのか。

受講者全員が就職できるようにハローワーク等関係機関等と連携しサポートする体制をとっておりますが、就職を保証するものではありません。受講者自身が、就職に向けての強い意志・意欲を持って受講し確実にスキルを身に付けるように努力していただくことが最も大事なことです。最後まで粘り強く頑張ってください。併せて、早めにハローワークへの求職登録を行い、定期的に窓口を訪ねてキャリアコンサルティングや就職斡旋を受け、就職先の開拓に努めてください。

Q14 アプレンティス科目の演習「システム開発・設計」クラス、「DX（現代社会のデジタル化）」クラスの違いはなにか。また、選択するクラスによって就職に有利、不利はあるのか。

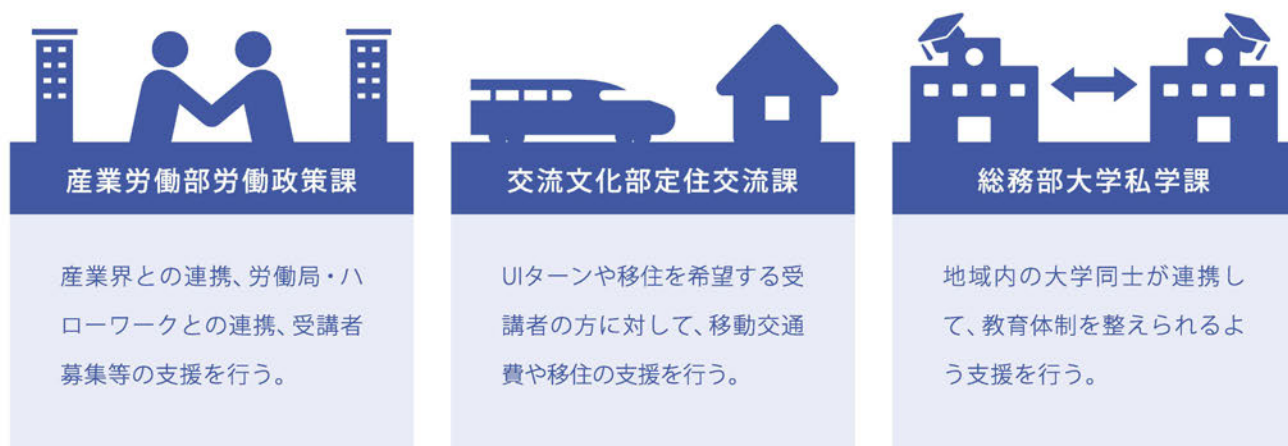
「システム開発・設計」クラスを選択した場合は、JIS規格設計に基づきシステム開発全体を把握し、チームを牽引する能力が、「DX（現代社会のデジタル化）」クラスを選択した場合は、サイバーセキュリティとシステム開発・設計に係る基礎的スキル・知識を身に付け企業のDX化を牽引する能力が得られる授業内容としています。「システム開発・設計」クラスについては、県内にはシステム開発系企業が多いこと、また「DX（現代社会のデジタル化）」クラスについては、企業のDX化を推進する県内企業が多いこと等、いずれも県内企業のニーズが高いと考えられ、いずれを選択するかは受講者自身がよく考えて決定してください。ただし、受講者募集要項にも記載のとおり、人数制限（各クラス15名程度）の関係から希望に沿えないこともありますので、ご承知おきください。

部分受講**Q15** 正規受講者となれなかった場合、部分受講者（一部の科目、特定の授業のみの受講者）に申し込むことはできるのか。

部分受講者に係る応募方法等は、正規受講者の応募の後、「部分受講者募集要項」等をホームページに掲載予定ですので、確認の上、申込み手続きを行ってください。

福井県からの支援

本プログラムは、福井県からの全面的バックアップを受けて実施されます。福井県は全庁体制で、各市町や関係団体と連携しながら、福井大学が行うプログラムの円滑な実施とその受講者の方への様々な支援を行います。新しいキャリアのために、ぜひ支援制度をご活用ください。



具体的な支援策

1. 事業の効果的・円滑な計画や運営に対する支援

- 県内産業界の動向や人材ニーズに対する情報の提供・共有および事業計画、運営等に対する助言を行います。
- 地域の大学同士が連携することにより、より効果的なりカレント教育を実施できるよう支援を行います。

2. 受講者募集に対する支援

- 県内商工関連団体、労働局・ハローワーク、移住関係事業等の登録者へ事前の案内を行います。
- 各市町の連携部署と連携し、募集案内を行います。
- 下記の機関におけるUターン希望者を含めた積極的な事業PR活動を行い、県外からも広く受講者を募ります。

- 東京・大阪・京都等の県外における福井県の事務所
- 密接な連携体制を築いてきた各地域の県出身経済人等で構成する県人会
- 全国に設置する福井Uターンセンターの各オフィス（東京・名古屋・京都・大阪・福井）

- 県の就職活動サイト「291JOBS」や移住サイト「ふくい移住ナビ」への掲載や登録者へのメール配信等、WEBを使用した案内を行います。

3. 受講者の移動経費に対する支援

- 移動交通費に対する支援を行います。
(移住を前提とした就職活動の際に適用。東京からの場合：14,000円/1往復)

4. 受講者の移住に対する支援

- 移住に関する相談等について、福井暮らしはたらくサポートセンター (TEL:0776-43-6295) にてお受けします。



FUKUI TYPE APPRENTICE PROGRAM